



第3回協議会の開催報告

令和6年2月20日
第5回 加茂駅周辺まちなかエリアプラットフォームワーキング

【未来ビジョン】 懐かしさとあたらしさが交じり紡いで、まちの心地よさをかもすまち

市民の記憶が刻まれた懐かしい面影を残す街並や風景と、時代の変化に対応した新しいニーズや価値観を融合させることで、賑わいや交流、消費など、まちの価値を生み出し、市民がまちなかで暮らし、働き、過ごす時間を、最高の日常に仕立てる。

エリアビジョン

まち
(商店街)

◆加茂の「いいね！」がまるごと詰まったまちのぷらっとHOME

買い物など生活やコミュニティを支えるまちなかの主骨格として、日常的な人と人とのコミュニケーションを強みに、多世代が気軽に立ち寄れる“令和における生活商店街”を再構築する。

みず
(加茂川)

◆みんなでお気に入りの過ごし方が共有できる水辺のパブリック・リビング

水辺の多様な使い方が共存できる滞在環境の向上を図るとともに、四季の変化や人との出会い、楽しみの発見がある交流空間としての活用を促進する。

みどり
(加茂山)

◆自然の恵みと神秘を身近に体験できる”まちの裏山”

自然と歴史が一体となった風格のある緑と、まちなかにいることを忘れてしまうような環境を生かし、潤いやホスピタリティを感じられる空間としての質の向上を図る。

つながり

◆まちなかの魅力が紡ぎだす”One Day Story “

市民の“おもてなし力”でまち、みず、みどりの魅力を磨きつつ、それらの一体感を醸成することで、暮らしや体験の価値が持続的に高まり、とっておきの一日が過ごせる仕組みをつくる。

エリアビジョン

まち (商店街)

加茂の「いいね！」がまるごと詰まったまちのぷらっとHOME

みず (加茂川)

みんなでお気に入りの過ごし方が共有できる水辺のパブリック・リビング

みどり (加茂山)

自然の恵みと神秘を身近に体験できる”まちの裏山”

つながり

まちなかの魅力が紡ぎだす”One Day Story “

実現に向けたポイント

- 加茂のショーケースとなるような飲食や物販店舗（特産品含む）の拡充
- 日常的な買い物のしやすさの向上（交通利便性や店舗でのサービス）
- 広場や公園、子どもたちが安心して遊べる空間など、人がいる日常風景を生み出す居場所づくり
- 人中心の歩きやすいまちづくり（歩行者天国、車の速度抑制等）

- 河川活用による新たなイベントの実施（鯉のぼりだけじゃないオールシーズンのイベント開催）
- 河川空間の利活用の推進（ルールづくり、情報発信も含む）
- 多様な利用が共存できるゾーニング的な利用エリアの設定
- 滞在環境の充実（ベンチ、日よけ、飲食サービス等）

- おもてなし、おでむかえなどホスピタリティのある景観形成
- 施設等の利用がわかりやすい案内、情報発信の充実
- 参拝後等に落ち着ける、憩いや佇み環境の充実
- 生物多様性や自然体験など環境学習の場・機会の充実

- まち・みず・みどりをつなぐ仕掛けづくり（商店街⇔加茂川⇔加茂山の間で人の流れを生み出すイベント、動線整備、情報発信等）
- おもてなし空間の形成（美化清掃、加茂らしい景観&風景形成）
- 市民のまちづくりやチャレンジ活動の場・機会を提供する仕組みづくり
- まちづくりの新たな担い手育成の仕組みづくり（まちづくり塾等）

まち（商店街）について

WGでの議論

具体イメージ
／ポイントに
関する議論

- 近隣地区住民が**ふらっと行きたくなる**商店街になると良い。
- **多世代向けの色々な居場所**があると、賑わいが生まれる。
- 大型店舗ではなく、商店街に行く理由は、「店主との**コミュニケーション**」である。
- 生活者の**ニーズに対応できるよう店舗や生活サービスを充実**させる。また、回遊を生む上では**飲食店（食べ歩き）が不足**している。郊外のスーパー等との**差別化**を考える必要がある。
- 空き店舗が有効に利用され、**時代のニーズに合わせた商店街としての新陳代謝**が進むような仕組みが重要である。
- 商店街全体が**加茂の名物・特産品・お土産も含め、加茂の良いモノが詰まった「ショーケース空間」**になると良い。
- 具体的な取組としては商店街全体を「道の駅」とすることが有効である。市外の観光客がメインのターゲットではなく、まちなかエリアで暮らす人、加茂駅を利用する若者、まちなかエリア外の市民も楽しく過ごせ、幸せになれる「道の駅」にしたい。
- **歩行者天国等で回遊を楽しめるほか、高齢者がバスでアクセスしやすい交通環境**をつくることが重要である。

シーン

- まちなかエリアのこども園に子どもを迎えにいった帰りにお買い物。子どもの託児サービスを利用してきて便利。商店街で買い物すると託児料金が割引となり嬉しい。
- 商店街の飲食店に高校生や大学生が、学校帰り、休日に立ち寄っている。
- 日中は近所に住む高齢者が、井戸端会議を楽しんでいる（心も健康になる）。
- 商店街に子どもの遊び場ができて、街がにぎやかに、明るくなった。
- が買うことができ、市外の友人を連れてきた。



参考

- 商店街が道の駅化した事例あり。（岡山県 道の駅「山陽道やかげ宿」）
- 道の駅は、無料で24時間利用可能な駐車場・トイレ（規模要件なし、分散配置可）、情報発信（交通、生活、観光レク）、地域連携機能を備えればよい。
- 駐車場：80台程度の道の駅の事例あり。
- 地元企業も参画したPFI手法等による整備事例あり。

みず（加茂川）について

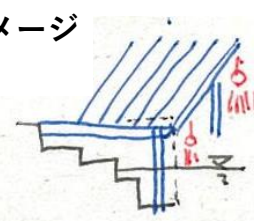
WGでの議論

具体イメージ
／ポイントに
関する議論

- 特定の世代、特定の方々に限定するのではなく、**老若男女、多くの市民が日常的に利用**する空間を目指す。
- **季節感（春夏秋）**を感じることができ、**気軽に繰り返し訪れたくなるリビング**のようなを目指す。
- **多様な利用ニーズを共存**させるため、佇み・憩いなど静的な使い方をするゾーンと、動的な使い方（若者のスケボー等）をする**ゾーンに分けて、日常の滞在者を増やす**。
- 滞在する上で、**夏場の日よけ（日陰）、座るところは必須**ある（構造物による日よけは無理であるが、移動可能なビーチパラソルをたくさん配置することは可能）。
- 長時間の滞在を可能とするために、広々とした自然の中で**飲食を楽しめる場を提供**する。
- やすらぎ堤や**川床（小京都のイメージ）**を設けることで、川辺の訪問目的や滞在時間を増やす。
- **オールシーズン型**のインスタ映えスポットとなるような空間を目指す。
▶「加茂川の鯉のぼり」だけでなく、加茂川を訪れる仕掛けをオールシーズンで実施し、「加茂川に行けば何かが流れている／見ることができる」ようにする。
- **ルールを守ることを前提**に、花火や焚火（焼き芋）などを楽しめるようにする（できるゾーンを指定）。



■川床イメージ



シーン

- 河川敷が自分らしく過ごせる場所となっている。
- スケボーする若者、ゲートボールする高齢者が、河川空間利用を時間や曜日でシェアリングしている。
- 短時間でも長時間でも誰もが自分らしい過ごし方ができる。
- 子供たちが楽しく水遊び（川レジャー：水切り・水生昆虫探し等）をしている。

参考

- 加茂川周辺の滞在者は、50代が大半で、20代は僅か。
⇒50代以上の利用を大切にしながら、まずは若い世代の滞在アップが重要。
- 出水期（6月10日～9月3日）のイベントは調整が必要。
- 夏祭りの時期や鯉のぼりの時期は1日に1,000人～5,000人の人が滞在するため、大人数が腰かけられる場所が必要。
【38ページ、40ページ参照】
- 現在、加茂川では火気を使う制限はないが、問題が生じると禁止されてしまう可能性がある。このため、焚火等を認める場合は、適正利用を促す仕組みも必要となる。

みどり（加茂山）について

WGでの議論

具体イメージ
／ポイントに
関する議論

- 加茂山公園の特徴は、**まちなかにありながら自然の真っ只中**にいるような環境であり、**自然を前面に打ち出す**ことが有効である。子どもたちが遊びながら**自然を学ぶ**ことができるようではどうか（プレーパーク等）。
- 新潟市や三条市から家族連れが来ており、集客面ではポテンシャルが高い。
- 加茂山は身近な**里山的な存在**であり、まちなかにこのような「癒し」の**エリア**があるのは売りになる。
- 「癒し」の要素は、**神秘**、池の端、食である。「癒し」によって、訪問者の心と身体にリフレッシュやリラックスを提供できる。
- 加茂山公園には、大型ローラースライダーやリス園、民俗資料館、ハイキングコースなど多彩な魅力、**潤いを感じられる場所**である。
- 一方、初めて来た人にとって、どこにどう行ったらよいのか案内等情報が不足している。各施設への**案内や誘導路を充実**するほか、**総合的にホスピタリティを高める**必要がある。
- 青梅神社のポテンシャルは高いが、滞在機能が弱い**。今でも茶屋があるが、意欲のある民間事業者が更に参入できる仕組みがあるとよい。コーヒー、お茶、会話を楽しめる**静かな賑わい**が生まれるとよい。
- 商店街から鳥居に至る道路は、歩道に景観舗装や水路が整備され、**景観的に優れているので、もっと活かす**ことが重要である。



シーン

- 加茂山に来るたびに、心も身体も健康になれる。
- 季節や時間帯（昼夜）を問わず訪れる場所になっている。
- 距離や標高、移動しやすく、利用しやすい公園になっている。
- 雨対策や暑さ対策、園路灯が充実しており、雨天や夏場、夜でも訪れやすい場所になっている。
- 子どもたちがツリーハウス、手作り遊具、どろんこ遊び、落ち葉プール、虫取り、古道探検など自然をわくわくしながら、環境の素晴らしさを学んでいる。

参考

- 加茂山公園の入込客数はコロナ前は約30万人であったが、回復途上にある。
- 加茂山公園の訪問者は、市内より近隣市（新潟市）からの利用者が多い状況があるため、市民の利用を促進する必要がある。
- 現状、加茂山公園は平日に比べ休日の利用が少ない状況になる。
- 平日は、高齢者（60代以上）が多く、休日は、30代が少ない傾向にある。

つながりについて

WGでの議論

具体イメージ
／ポイントに
関する議論

- ・ **加茂山、商店街、加茂川がそれぞれに魅力を高めておくことが重要。**また、市民の間で、**商店街、加茂川、加茂山への愛着が芽生え、そこからおもてなしへつなげていくムーブメント**をつくることが重要。
- ・ 1日の中で、例えば加茂山で遊び、商店街で買い物・飲食をし、加茂川で憩うなど、**まち・みず・みどりが連携してストーリーを生み出す**ことを目指す。
- ・ 現状では商店街、加茂川、加茂山のイベントが別々に行われているが、**一体感を醸成するため、まちなかエリア全体をフィールドとした連携イベント**を行う。
- ・ 一部区間（加茂山⇄商店街⇄加茂川）をシーズン又は時間を決めて歩行者天国とするなど、**回遊を生み出す環境を整える。**
- ・ 商店街では、加茂山や加茂川のおすすめ滞在スポットを紹介するなど**回遊を促す情報発信**を行う。



- ・ 学生（加茂農林高校等）や高齢者が**活躍できる場・機会を用意**することで、地域の活力が増し地域内の愛着が芽生えるとともに、外からも魅力あふれるまちと認識され、好循環を創り出していくことができる。
- ・ まちの美化清掃活用や花いっぱい運動など**おもてなしの空間づくり活動の場や機会を提供できる仕組み**をつくる。
- ・ 空き店舗をチャレンジショップとして活用することが考えられるが、所有者との調整など、簡単にできない場合もあるため、加茂川や加茂山を**チャレンジ空間として活用できる仕組み**をつくる。

シーン

- ・ 農林高校の生徒さんが、農産物の販売や花壇の維持管理などプレイヤーとして活動している。
- ・ 加茂山で遊んで、商店街でショッピングやランチ、店主との会話を楽しみ、加茂川でビール・ドリンクを片手にまったりする。
- ・ 小京都加茂ツアーとして、みどり（加茂山）⇄まち（商店街）⇄みず（加茂川）を巡るツアーを実施している。
- ・ 加茂川の河川敷に仮設のチャレンジショップを開設し、実績を積み重ねたあと、地元金融機関の支援ももらって商店街の空き店舗で本格開業できた。

参考

- ・ 葵橋～穀町・本町（宮大門交差点）～青海神社は、現状でも歩行者通行量が相対的に多い。

エリアビジョンに基づく将来イメージ

第3回協議会で提示した内容 (参考用)

●【みず】みんなでお気に入りの過ごし方が共有できる水辺のパブリック・リビング

●【まち】加茂の「いいね！」がまるごと詰まったまちのぷらっとHOME

●【つながり】まちなかの魅力が紡ぎだす "One Day Story"

多世代が気軽に立ち寄れる
“令和における生活商店街”
の再構築

市民の“おもてなし力”でまち、
みず、みどりの魅力磨き

まち、みず、みどりの一体感の醸成
山で遊び ⇒ まちで休み／買い物し ⇒ 川で憩う

多様な使い方が共存できる滞在環境
の向上

四季の変化や人との出会い、楽しみ
の発見がある交流空間としての活用
鯉のぼり

川床

プロジェクション
マッピング

●【みどり】自然の恵みと神秘を
身近に体験できる“まちの裏山”

潤いやホスピタリティを感じられ
る空間としての質の向上



第3回協議会での意見を踏まえた対応（案）

【未来ビジョンとして確定する前の案について】…次年度対応

- 未来ビジョンとして確定する前の案の公表は、未来ビジョンの検討の進捗（わかりやすい成果がまとまった段階）を踏まえて次年度検討

（主な意見）

- ビジョンとして確定する前の案を市民や企業にどのように見せていくのか。
- 一方、骨子だけを見せると混乱するかも知れない。

【未来ビジョンのキャッチコピー等について】…再検討した事務局案を本日のWGで提示

- ビジョンとしての総体を捉える表現と、キャッチコピーとしてメッセージを伝える表現は異なるものであることを念頭に再検討

（主な意見）

- 加茂も「何かやるよね」というメッセージを打ち出すことが必要。
- 参加・協力してくれる企業やプレイヤーが加茂に来てみたいと思う見せ方が必要。
- 対外的な発信と加茂市民への発信は、それぞれ分けて考えることが必要。

【具体的な取組の検討について】…次年度対応

- 「エリアビジョン」（2ページ）及び「実現に向けたポイント」（3ページ）を基に、具体的な取組をとりまとめながら、内容を充実
- 具体的な取組が概ね整理された段階で、改めて「エリアビジョン」及び「実現に向けたポイント」と照らし合わせ、必要に応じて見直し

（主な意見）

- 今後、ポイントとなる事業を見極めることが重要。
- 誰がいつやるのか、長期か短期かといった仕組みについて、深めることが必要。
- ビジョンの実現に向けた主要なプロジェクトを発信。
- 議論は、行ったり来たりしても良く、具体的な取組の議論が進んだ段階でビジョンを見直し